

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会福祉法人 みどり福祉会		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岐阜市北山1丁目15番25号 (電話) 058-244-1210		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月20日	評価確定日	平成19年8月7日

【情報提供票より】

(平成19年6月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤3人, 非常勤13人, 常勤換算7.62人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての		1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,100 円	その他の経費(月額)	21,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400
	夕食	400 円	おやつ	0
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年6月1日 現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	3名	要介護2	1名			
要介護3	1名	要介護4	4名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85歳	最低	81歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり病院・すこやか診療所・下有知歯科・鈴木歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、ケアハウス・ヘルパーステーションと併設している。玄関までの通路には、緑の生垣とともに入居者の方が丹精こめた見事なナスやトマトが収穫を間近にしていた。赤いポストや傘立てが家庭的な雰囲気をつくっている。玄関から障子を開けると居間があり、入居者の方が思い思いにくつろぎ、和やかな雰囲気である。ケアハウスと合同でバスツアーは、地域の民生委員やボランティアの協力のもと取り組みが始まり、着実に地域の中のホームを目指している。年数が経つにつれ重度化する入居者に対してもの人らしく生活できるよう職員が協力し合って取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ホーム便りが2ヶ月に一度出されている。夜勤可能者が8名となり、昼間管理者不在となる日を極力避けるようにした。西日への対応にカーテンを取り付けた。プライバシーに配慮して整容支援を洗面所で行うようにした。指摘事項に対して積極的に改善がされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に対する取り組みは積極的である。出来ていないと思われることは謙虚に外部評価を待たずに改善に向けた検討を開始している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 併設施設のケアハウスと協同して、地域の協力を得たバスツアーを企画するなど、運営推進会議を足がかりとした取り組みが始まっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの評価は、おおむね満足しており、職員の努力が伝わっていることが分かる。入居者本位の姿勢に立ち、入居者が自己主張して生活できることを目指して運営している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 前年までの地域との連携の少なさへの対応として、運営推進会議を通して積極的に地域へ働きかけを開始した。バスツアーには地域のボランティアを募集し、協力を得られバスツアーが成功した。夏には花火大会に参加する予定である。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型としてのホームづくりを検討しているが、理念に具体的な表現をしていない。	○	現在取り組もうとされていることを理念という形で表現し、誰にでも分かるように掲示するとよい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念は職員も管理者も、入居者に心身ともに閉鎖的な生活をさせないという認識に立ち、同じ視点で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の行事への参加を呼びかけたり、地域の行事に出向くようにしたり、関係づくりに努めている。	○	ホームだよりの配布を断られたことがあるため、その後の取り組みはないが、ホームを理解してもらう工夫に期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価にて要改善の部分が全て改善されていることから、評価の意義を理解し、より良いサービス向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、グループホームの理解をしてもらうことから始め、協力を求めている。ホームからも地域へ出向くようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において、市とも良好な関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月金銭出納報告を行い、定期的に便りを発行し、一人ひとりの利用状況を伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱が設置してあり、2ヶ月に一度確認されている。苦情担当者も明示してある。家族アンケートからも良く聞いてもらえると評価がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	6月に管理者が変更しているが、便りや面会時などに家族に対して説明がされている。馴染みの関係を崩さないよう職員の異動は極力さける努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や計画作成者は、認知症実践者研修を受けており、他の非常勤職員は、ホーム内での研修を繰り返している。	○	情報交換ができるような外部での研修参加も取り組まれることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内のケア会議へ参加をしているが、地域のグループホーム同士の情報交換や交流する機会はまだ出来ていない。	○	同業者同士が共にサービスの質の向上をめざし、ネットワークづくりや勉強の機会に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から意見を聞き本人の状況を把握して、関係づくりに取り組んでいる。不安な方には体験利用が出来る。家族の支援を受けながら慣れてもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に合わせた言動がされている。強制しないで、その人らしく過ごせるよう対応している。		

外部 評価 値	自己 評価 値	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の場面で強制することなく、これまでの生活などを尊重して本人の希望に応じて生活できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を尊重して、定期的な会議や日常の話し合いの中で、職員同士の意見を反映させて計画が作成してある。非常勤職員も参加できるような体制や、申し送りを確実に行う体制がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画の見直しができている。状況の変化に対しても職員間で話し合い、対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアハウスと併設のため、ケアハウスの入居者との交流があり、喫茶室へも出入りできる。行事を合同で行い、より幅広い対応が可能となっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのすぐそばに病院や医院があり、かかりつけ医となっている。別のかかりつけ医への受診も可能で、歯科受診もでき適切な医療を受けることが出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	徐々に介護度が重くなる入居者の状態に合わせた対応をとっている。家族の希望があれば重度化してもホームで見ていくことも考えており。ターミナルケアの経験もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	集団生活の中で個人のプライバシーに配慮すべき場面は多くあり、職員間で統一して対応している。前回の評価で配慮すべきとあった点は改善している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思や思いを尊重している。希望を出来るだけ受け止めて実践している。気まますきなように生活できるよう支援している。一人で散歩に出たり、野菜の手入れをすることなどが出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には、配膳や準備を手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて毎日でも入浴できる。夜間の入浴は安全上難しいが、所要時間など、一人ひとりの好みに合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのやりたいことに合わせて、散歩、野菜づくり、昼寝などが出来ている。全体として外出なども企画され楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に誘う。バスツアーなど外出の企画もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを管理者や職員は理解しており、施錠はしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議の中で、非常時での地域の協力を依頼し、体制が出来ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握し、食事の形態もその日の体調に合わせた配慮がある。一人ひとりの健康状態を十分に観察している。	○	併設施設に管理栄養士がいることから、時には、メニューを見て確認してもらえよう、連携が取れるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前年度指摘のあった西日への対応は、すでに改善済みである。ホーム内は季節や生活が感じられる小物や花や入居者の作品などが自然に配置してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人のタンスや小物など多くの馴染みのものが置いてあり、落ち着ける場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。